2022年3月期
第1四半期（4月1日〜6月30日）
連結決算の概要

ロート製薬株式会社
経理財務部
2021年8月10日
2022年3月期第1四半期の概況

概況

新型コロナウイルス感染症の変異株による再拡大が進んだものの、ワクチン接種の進展や自粛疲れもあり実質15.4%の増収。利益面でも増収に加え費用の効率的な活用により全ての利益段階で大幅な増益。

国内市場は増収増益

前期に外出自粛の影響を受けた日焼け止めなどが増収となったことに加え、「メラノCC」や「デオコ」など話題の商品は好調持続。

新収益認識基準を適用でも増収増益。インバウンド需要は、越境ECが堅調。

原価率低減や販促広告費の効率的活用。

海外も増益

前期に大きく落ち込んだ中国や香港が回復したことに加え、インドネシアやベトナムなどASEAN諸国も増収。

欧米諸国も回復傾向。

通期業績予想は据え置き

天藤製薬の業績寄与は下期に織り込む予定。
連結損益

※当期より「収益認識に関する会計基準」を適用。

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>2022年3月期第1四半期（新基準）</th>
<th>売上高比</th>
<th>2021年3月期第1四半期（旧基準）</th>
<th>増減額</th>
<th>増減率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>売上高</td>
<td>42,315</td>
<td>100.0</td>
<td>38,641</td>
<td>3,673</td>
<td>9.5</td>
</tr>
<tr>
<td>売上原価</td>
<td>18,188</td>
<td></td>
<td>16,580</td>
<td>1,608</td>
<td>9.7</td>
</tr>
<tr>
<td>原価率</td>
<td>43.0</td>
<td></td>
<td>42.1</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>販管費</td>
<td>18,118</td>
<td>42.8</td>
<td>18,486</td>
<td>△368</td>
<td>△2.0</td>
</tr>
<tr>
<td>販促費</td>
<td>2,391</td>
<td>5.7</td>
<td>4,364</td>
<td>△1,937</td>
<td>△45.2</td>
</tr>
<tr>
<td>広告費</td>
<td>4,749</td>
<td>11.2</td>
<td>3,676</td>
<td>1,072</td>
<td>29.2</td>
</tr>
<tr>
<td>研究費</td>
<td>1,885</td>
<td>4.5</td>
<td>1,686</td>
<td>199</td>
<td>11.8</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>9,092</td>
<td></td>
<td>8,759</td>
<td>333</td>
<td>3.8</td>
</tr>
<tr>
<td>営業利益</td>
<td>6,008</td>
<td>14.2</td>
<td>3,575</td>
<td>2,433</td>
<td>68.1</td>
</tr>
<tr>
<td>経常利益</td>
<td>6,521</td>
<td>15.4</td>
<td>3,802</td>
<td>2,719</td>
<td>71.5</td>
</tr>
<tr>
<td>親会社株主に帰属する純利益</td>
<td>4,731</td>
<td>11.2</td>
<td>1,747</td>
<td>2,984</td>
<td>170.8</td>
</tr>
</tbody>
</table>

為替レート: USドル＝108.99円（前年同期 107.57円）
新収益認識基準の適用による影響

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>2020年6月期</th>
<th>2020年6月期</th>
<th>増減額</th>
<th>前期比</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>（旧基準）</td>
<td>（新基準）</td>
<td>（新基準）</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>売上高</td>
<td>38,641</td>
<td>36,663</td>
<td>42,315</td>
<td>5,651</td>
</tr>
<tr>
<td>売上総利益</td>
<td>22,061</td>
<td>19,959</td>
<td>24,126</td>
<td>4,167</td>
</tr>
<tr>
<td>営業利益</td>
<td>3,575</td>
<td>3,584</td>
<td>6,008</td>
<td>2,424</td>
</tr>
<tr>
<td>経常利益</td>
<td>3,802</td>
<td>3,811</td>
<td>6,521</td>
<td>2,710</td>
</tr>
<tr>
<td>親会社株主に帰属する当期純利益</td>
<td>1,747</td>
<td>1,756</td>
<td>4,731</td>
<td>2,974</td>
</tr>
<tr>
<td>1株当たり当期純利益（円）</td>
<td>15.32</td>
<td>15.40</td>
<td>41.48</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
連結営業利益の増減（新基準の比較）

2020年6月
営業利益

3,076
（百万円）

2021年6月
営業利益

6,008
（百万円）

売上

3,584

原価率

1,091

販促費

1,073

広告費

199

その他販管費

333

研究開発費

※当期より「収益認識に関する会計基準」を適用。
<table>
<thead>
<tr>
<th>報告セグメント別売上</th>
<th>2020年6月期 (旧基準)</th>
<th>2020年6月期 (新基準)</th>
<th>2021年6月期 (新基準)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>金額</td>
<td>構成比</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td>売上高</td>
<td>38,641</td>
<td>100.0</td>
<td>36,663</td>
</tr>
<tr>
<td>日本</td>
<td>25,943</td>
<td>67.1</td>
<td>23,965</td>
</tr>
<tr>
<td>アジア</td>
<td>8,295</td>
<td>21.5</td>
<td>8,295</td>
</tr>
<tr>
<td>アメリカ</td>
<td>2,130</td>
<td>5.5</td>
<td>2,130</td>
</tr>
<tr>
<td>ヨーロッパ</td>
<td>1,852</td>
<td>4.8</td>
<td>1,852</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>38,222</td>
<td>98.9</td>
<td>36,244</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>419</td>
<td>1.1</td>
<td>419</td>
</tr>
<tr>
<td>為替レート (USドル／円)</td>
<td>107円57銭</td>
<td>107円57銭</td>
<td>108円99銭</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※ 売上高は外部顧客に対するものです

※当期より「収益認識に関する会計基準」を適用。
<table>
<thead>
<tr>
<th>報告セグメント別営業利益</th>
<th>2020年6月期（旧基準）</th>
<th>2020年6月期（新基準）</th>
<th>2021年6月期（新基準）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>営業利益</td>
<td>3,575 100.0</td>
<td>3,584 100.0</td>
<td>6,008 100.0</td>
</tr>
<tr>
<td>増減額</td>
<td>△69 -</td>
<td>△69 -</td>
<td>106 1.8</td>
</tr>
<tr>
<td>増減率</td>
<td>1.8</td>
<td>1.6</td>
<td>52.1</td>
</tr>
<tr>
<td>日  本</td>
<td>2,587 72.4</td>
<td>2,596 72.4</td>
<td>3,913 65.1</td>
</tr>
<tr>
<td>ア  ジ  ア</td>
<td>1,054 29.5</td>
<td>1,054 29.4</td>
<td>1,603 26.7</td>
</tr>
<tr>
<td>ア  メ  リ  カ</td>
<td>△69 -</td>
<td>△69 -</td>
<td>106 1.8</td>
</tr>
<tr>
<td>ヨ  ロ  ッ  パ</td>
<td>58 1.6</td>
<td>58 1.6</td>
<td>235 3.9</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>3,630 1.6</td>
<td>3,640 1.6</td>
<td>5,859 3.9</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>29 0.8</td>
<td>29 0.8</td>
<td>37 0.6</td>
</tr>
<tr>
<td>為替レート（USドル/円）</td>
<td>107円57銭</td>
<td>107円57銭</td>
<td>108円99銭</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※当期より「収益認識に関する会計基準」を適用。
日本 大幅増収増益

売上高 263億80百万円 前年同期比 10.1％増
営業利益 39億13百万円 同 50.7％増

新型コロナウィルスの影響が一巡
- 日焼け止め等回復
- 高付加価値品堅調
- 高額目薬

話題の商品が好調
- デオコ
- ロートV5粒
- メラノCC

※前年同期を新基準にした際の比較
インバウンド需要は底打ち？

インバウンド関連四半期売上の推移

圧倒的人気のマナジーシリーズ

エピステーム ステムサイエンスドリンク

1,319 951 661 622 799 707 738 535 382 268 290 263 437
アジア 急回復

主力の中国・香港が回復傾向。

ASEAN諸国も堅調。

- 中国：36%増収（29%増収） 12月決算
- 香港：42%増収（40%増収） 2月決算
- ベトナム：14%増収（16%増収） 12月決算
- インドネシア：5%増収（10%増収） 12月決算
- 台湾：21%増収（12%増収） 2月決算
- マレーシア：27%増収（19%増収） 2月決算

( )現地通貨比較

売上高 108億44百万円 前年同期比 30.7%増
営業利益 16億03百万円 同 52.1%増

※前年同期を新基準にした際の比較
### アメリカ・ヨーロッパ他

<table>
<thead>
<tr>
<th>区域</th>
<th>売上高</th>
<th>前年同期比</th>
<th>営業利益</th>
<th>前年同期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>アメリカ</td>
<td>20億21百万円</td>
<td>△5.1%減</td>
<td>1億06百万円</td>
<td>△69百万円</td>
</tr>
</tbody>
</table>

- メンソレータム軟膏は反動減
- ブラジルが新型コロナウィルスの影響で減収

<table>
<thead>
<tr>
<th>区域</th>
<th>売上高</th>
<th>前年同期比</th>
<th>営業利益</th>
<th>増減率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ヨーロッパ</td>
<td>25億80百万円</td>
<td>39.3%増</td>
<td>2億35百万円</td>
<td>300.1%増</td>
</tr>
</tbody>
</table>

- 主力の消炎鎮痛剤や「肌ラボ」が堅調
- 日やけ止めなど化粧品に回復の兆し

※前年同期を新基準にした際の比較
通期業績予想は据え置き

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>予想値</th>
<th>上期値</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>売上高</td>
<td>23.3%</td>
<td>22.0%</td>
</tr>
<tr>
<td>営業利益</td>
<td>26.0%</td>
<td>20.4%</td>
</tr>
<tr>
<td>経常利益</td>
<td>27.3%</td>
<td>21.7%</td>
</tr>
<tr>
<td>当期純利益</td>
<td>27.7%</td>
<td>23.8%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

天藤製薬の業績寄与は下期に反映予定
統合経営ビジョン2030〜Connect for Well-being〜

OTCリーディングカンパニーへ進化
- スキンケア領域
- 機能性食品

医療用医薬品
- 再生医療
- 眼科領域
  新薬開発・医療機器開発

開発製造受託（CDMO）
天藤製薬の子会社化

□ 『日本におけるOTC医薬品リーディングカンパニーを目指す』に向けたアクション

□ 天藤製薬の既存事業からの利益貢献に加え、ロートの海外インフラを活用した新規の展開により、グループとしての価値向上を目指す
ファーマフーズとの資本業務提携

重点領域における開発・生産・販売力の強化

PFI
高付加価値素材
発酵技術
通販プラットフォーム

ロート製薬
製品開発力
生産拠点（国内・海外）
通販事業体制

開発

協業

生産

販売

1. スキンケア・機能性食品共同開発
2. 海外における両社協業製品の
生産体制確立
3. 通信販売プラットフォーム
を活用した製品発売
COVID-19重症肺炎症患者を対象とする ADR-001の第Ⅱ相試験を開始

ADR-001とは
当社で開発を進めている他家脂肪組織由来幹細胞を構成細胞とする細胞製剤

背景
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の重症化に伴う炎症反応は、免疫細胞がウイルスと戦うために作るサイトカインが制御不能となって放出され続ける現象が影響していると言われている。
間葉系幹細胞は、複数のメカニズムによる抗炎症効果があると言われており、開発を進めている他家脂肪組織由来幹細胞はCOVID-19治験薬が奏功しない患者に効果が期待される。

経緯
• 2020年8月から開始していた第Ⅰ相試験において一定の安全性を確認
• 2021年6月から主要評価項目を有効性とした第Ⅱ相試験を開始（～2022年9月）

治験概要
ランダム化プラセボ対照二重盲検群間比較試験（予定症例数 20例）
【MAQUIA】ベスト・オブ・ベスト大賞

ベスト・オブ・ベスト大賞

【OBAGI】

オバジC25セラム ネオ
12ml ¥1048 ロート製薬

ビタミンCの威力を再確認。

オバジは、ビタミンCの極限濃度を極限まで効かせる革命的処方。

ビタミンCの持つ防禦力を最大限に引き出し、肌を活性化させ、透明感を出します。

全ての肌に効く、オバジC25セラム。

オバジC25セラムは、ビタミンCの極限濃度を極限まで効かせる革命的処方。

ビタミンCの持つ防禦力を最大限に引き出し、肌を活性化させ、透明感を出します。

オバジC25セラムは、ビタミンCの持つ防禦力を最大限に引き出し、肌を活性化させ、透明感を出します。
■ 本資料は、投資判断の参考として、弊社の現状を理解して頂くために作成したものです。

■ 本資料に記載された内容は、作成時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢および弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

■ 投資を行う際は、ご自身の判断において行っていただきますよう、お願いいたします。

■ 本資料を利用することにより生じた、いかなるトラブルおよび損失、損害に対して、弊社は一切責任を負いません。